

■ ドル/円は今、重要なターニング・ポイントを迎えている！？

ついに、ドル/円が110円台に乗せる動きとなってきた。今週14日には一時110.21円まで値を上げる場面もあり、いよいよ一目均衡表の週足「雲」上限ブレイクに挑戦する場面でもある(下図参照)。前回更新分の本欄でも触れたように、先週末までの週足は「雲」下限と62週移動平均線に上値を押さえられる展開が続けていたが、今週はそれらの節目を一気に上抜け、いまや週足「雲」上限の水準にまで到達する展開となってきたわけである。

このことは同時に、これまで長らく注目してきた例の「三角保ち合い＝トライアングル」(2015年6月から形成されてきた)を、いよいよ上放れる可能性が強まってきたということでもあり、まさにドル/円は今、重要なターニング・ポイントを迎えている。ちなみに、このトライアングルの上辺は来週にも110.20円程度にまで水準を切り下げてくる。



その背景には、このたび米中が両国間の貿易交渉における第1段階での合意文書への署名を行う運びになったという大きな材料があり、さらに米政府が中国に対する為替操作国の認定を解除するという追加材料も加わった。思えば、これまでは長らく米中の対立や米政府による為替操作国認定などといった不穏な数々の出来事が、長らくドル/円の上値を押さえ込み続けてきたわけであるから、今後はドル/円が一定の上値余地を拡げる展開となって当然と言える。

仮に、近くドル/円がこのトライアングルをクリアに上放れる展開となった場合、最初に上値の目安とされるのは、やはり4月高値の112.40円であり、いずれ同水準をも上抜ける展開となってくれば、次に114円台が視野に入ることとなる。

振り返ると、一昨年(18年)10月にドル/円は一時114.60円まで上値を伸ばす場面があった。そして、ほぼ同じタイミングで日経平均株価は2万4448円という平成バブル崩壊後の最高値をつけるに至ったのである。その日経平均株価は今、再び2万4000円の台に乗せる動きとなってきたり、もはや同高値は射程圏内と見ることできる。

むろん、日経平均株価とドル/円の値動きが常にリンクするとは限らないが、日経平均株価が今後2万5000円台を視野に入れるような展開にでもなれば、さすがにドル/円の上値も少しは軽くなると考えていいだろう。ちなみに、筆者が先日取材した大和証券投資情報部では「1-3月期の日経平均株価の予想値上限＝2万5000円」としていた。

昨日(15日)のNY市場では「米政府が今年、減税などの財政刺激策を検討している」との一部報道が米株価を押し上げる場面もあり、今後もトランプ氏による米大統領選に向けた票(支持率)目当ての言動は途切れることがないだろう。言わずもがな、基本的に景気刺激策はドル買い要因となる。今の米国は製造業が伸び悩む一方でサービス業は絶好調であるから、基本的にはドル高の方が都合がよい。もちろん、トランプ氏は今後も「ドル高是正」を唱え続けるだろうが、為替相場ばかりは「大統領の意のままに」というわけには行かない…。

(01月16日 11:05)